

第 6 9 回 埼玉県美術展覧会審査評

【第 6 部 写真】

審査主任 さとう 佐藤 ちかまさ 親正

令和元年開催の69回展は、審査対象出品数が、
1.300点、入選点数456点、入選率は35.1%でした。応募作品はジャンルに片寄らず、それぞれの求める表現で作品を創作した力作が印象に残り、応募いただいた皆様に衷心より感謝申し上げます。

審査は、9人の審査員により、4次審査まで投票を行い、受賞作品を決定するまで厳正に行いました。単写真、組写真ともに公平な審査を心がけて賞の決定をいたしました。近年は、デジタル編集の普及によりA3ノビのプリントでの応募が多くなっています。撮ってから作品制作まで自分で行う事が主流となる時代がいよいよ来たことを実感しました。毎年の県展が皆様の励みになるように努力いたしますので今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

・ 埼玉県知事賞

「^{しゅんびけい}春美景」 ^{しばた}柴田 ^{まさひこ}昌彦

早春をすがすがしい色使いで表現しております。
右に残り柿、左に芽吹いたばかりで、まだオレンジ色の若葉を配し、中央に柳と思われる新緑を表現しました。

3枚の作品には残雪があり、それぞれの色を引き立てる効果を感じます。3枚全ての作品が極めて短い時期にしか見られない風景です。作者は大変努力したことと推測致します。

・ 埼玉県議会議長賞

^{よる}夜 ^{いそぐひと}へ急ぐ人 ^{こたに}小谷 ^{かずみ}和己

普通では気にも留めないロケーションが光と影の演出で想像的な魅力を引き出しています。老朽化している建物と「夜へ急ぐ」が不思議なイメージでつながり、見る人の思いを増幅させます。

画題の「人」を想像させるに留めた表現も斬新で左右の赤に効果的な力を感じます。

・ 埼玉県教育委員会教育長賞

しゅうえん
終演

たかつか
高塚

てるみ
光美

美しかったほおずきが時と共に変化する最後の姿を、悲しくも美しく昇華した作品です。

作者の作意を表現できた作品になりました。背景の黒の中に崩れる傘をリアルに表現し、垂れ下がる傘を撮りえた事が写真表現の価値です。

中心の実はしわしわになるも、赤が冴え冴えと輝くことで精神性を感じる作品になりました。

・ 埼玉県美術家協会賞

じかん
スローな時間

いりえ
入江

かずお
一男

現代社会に一番求められる世界が画面に感じられます。作者の意図が画題に示すように、「現代社会にこそ心や時間に余裕が欲しい」との願いを込めた作品になりました。

作者の感覚と被写体が合致して表現出来た作品です。傍らに愛犬がいる事も現代社会を表現する効果を感じます。

・ 埼玉県美術家協会賞

かいろう
回廊

うなやま
宇南山

あつし
篤

一見すると派手な作品に見えますが、よく見てみると色々と想像のできる作品です。

左の看板には活動的な若者が表現されており、その中に現代社会を感じることができます。

一方、杖を突いて歩く年配者と長く続く回廊からは人生を感じます。その後ろ姿には寂しさを感じますが、仕事をやり遂げた充実感も感じることができます。

・ 埼玉県美術家協会賞

まよ
迷いこんだ路地

やながわ
柳川

きょうへい
恭平

路地をテーマに撮影した組写真です。基本となる起承転結のストーリー性もあります。

一番目には看板を入れて路地に迷い込む前の現実の世界を表現し、次にここは何処だろうという窓の風景を見せて、最後に暗い路地に希望を感じる光を

見せています。

色とイメージの統一性も良い作品になりました。

・埼玉県美術家協会賞

るりいろ かがやき わかばやし まさお
瑠璃色の輝 若林 正雄

この作品は偶然に鳥と出会い撮影できた作品とは思えません。鳥の行動を観察し、ロケーションを決めて撮影した作品だと思います。

無駄のない構成になっており、背景を暗く落としたこと、花と鳥とのバランスが絶妙なこと、ピントが鋭く鳥の活動の機敏さを表現したことで素晴らしい作品になりました。

・さいたま市長賞

へいせい みゆきぞく こたに まゆみ
平成 みゆき族 小谷 真弓美

1964年に開催された東京オリンピックの頃、自由な考え方や行動を示す青年達がみゆき通りに集まった時代からの時間の経過と社会の変化を表現した作品だと判断いたしました。

ブルーの色彩や樹木の影、淡々と歩く若者の服装などから時の流れと変化を表現しました。

標識以外過度な説明的表現も無く、見る側に考えさせる作品だと思います。

・さいたま市教育委員会教育長賞

はる 春 の 喜び
きくち 菊地 かつや 勝也

大木の桜が満開に咲き誇るグラウンドに、黄色い制服の園児達が集う姿は画題の「春の喜び」そのものです。

毎年咲く桜と共に記念撮影をして園児たちの忘れない思い出を想像できる作品です。

園児たちが大人になってこのグラウンドに来たとき、この桜が毎年咲き誇ることを願う作品にも思いました。

・東京新聞賞

はる 遥 かなる 大地 かつら 加藤 しゅう 秀

6枚の写真がそれぞれにこだわりの表現で丁寧に撮影された作品です。

草原、海、岩を上手にまとめ、広大なランドスケープを表現しました。統一されたトーンも見応えを感じます。奇をてらう様な表現もありません。作者が大地と向き合い真正面から表現した気持ちの良い作品です。

・ 埼玉新聞社賞

ようしゅん
陽春

いのうえ
井上

ふみこ
文子

入賞作品の中で唯一のモノクロ作品です。風に吹かれてなびく髪が逆光で輝き、子供の表情、視線も自然で素晴らしく、モノクロ表現の効果を感じる作品になりました。

抱っこしているのはお父さんでしょうか、しっかりとつかまった指にも親子の愛情と絆を感じます。

・ 時事通信社賞

みせさき
店先

ますこ
益子

さなえ
早苗

周辺光量を落とし、3人の営みを中心にした店先がドラマチックに表現されました。この作品には日常の生活感があります。その国の風土を感じます。

店先の卵、野菜、果物の並び方や量目などの写真表現は、メッセージとして正確に伝える写真の力を感じる作品だと思いました。

・ 埼玉県美術家協会会長賞

きょう 今日 それぞれの あらい 新井 とみじ 富二

現代は色々な場面でプライバシーが問題化されています。写真界においても同様で、人に対してカメラを向けることへの抵抗が大きく、年々人物写真が減少傾向にあると思われます。

この様な環境の中、それぞれの人生模様視線を向けている姿勢と作品の力に、今後の写真界において大いに期待できるものを感じる作品です。

・ 高田誠記念賞

じゃっこうびふう
寂光微風 の刻

あらい
新井 房子

力なき月明かりが綺麗な写真と言うよりも静かな
時間帯を描写しています。

この場面を作者がどんな気持ちで撮影をしたのか、
作者の心の内が伺えます。

プリントもそれに添った表現になっており、見る
人も作者と同じ感動を受ける作品になりました。